米国　製造業はスピード調整（17年12月鉱工業生産）

：2018年1月18日（木）

～自然災害による一時的な増減の後、18年は緩やかな拡大ペースに回帰～

第一生命経済研究所　経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治
03-5221-5001

	鉱工業生産		製造業(NAICS)	鉱業	公益	ハイテク関連	除ハイテク関連	自動車関連	設備稼働率 全産業	製造業(SIC)	生産能力
16/12	＋0.8	(＋0.8)	＋0.2	▲0.4	＋6.9	＋0.5	＋0.2	＋1.3	＋76.0	＋75.2	＋0.1
17/01	▲0.3	(▲0.0)	＋0.4	＋1.4	▲7.2	▲0.9	＋0.5	▲1.1	＋75.7	＋75.4	＋0.1
17/02	＋0.2	(＋0.4)	＋0.3	＋3.6	▲4.8	▲1.9	＋0.5	＋1.2	＋75.8	＋75.6	＋0.1
17/03	＋0.2	(＋1.4)	▲0.7	▲0.4	＋8.2	＋0.1	▲0.8	▲3.6	＋75.9	＋75.1	＋0.1
17/04	＋1.1	(＋2.1)	＋1.3	＋0.6	＋0.2	＋2.0	＋1.4	＋4.2	＋76.6	＋76.0	＋0.1
17/05	＋0.0	(＋2.3)	▲0.5	＋0.8	＋2.7	＋0.3	▲0.7	▲2.3	＋76.6	＋75.6	＋0.1
17/06	＋0.2	(＋2.1)	＋0.1	＋1.3	▲0.9	＋0.2	＋0.1	▲0.7	＋76.6	＋75.6	＋0.1
17/07	▲0.2	(＋1.7)	▲0.3	▲0.3	＋0.5	▲1.2	▲0.3	▲4.8	＋76.4	＋75.3	＋0.1
17/08	▲0.4	(＋1.4)	▲0.2	▲1.0	▲1.2	＋0.3	▲0.3	＋3.5	＋76.0	＋75.1	＋0.1
17/09	＋0.2	(＋1.7)	＋0.1	＋1.5	▲1.3	＋1.0	＋0.2	＋1.7	＋76.1	＋75.2	＋0.1
17/10	＋1.8	(＋3.4)	＋1.5	＋1.7	＋4.1	＋2.0	＋1.4	＋1.3	＋77.4	＋76.3	＋0.1
17/11	▲0.1	(＋3.5)	＋0.3	＋0.1	▲3.1	＋1.6	＋0.3	▲0.5	＋77.2	＋76.4	＋0.1
18/12	＋0.9	(＋3.6)	＋0.1	＋1.6	＋5.6	＋0.4	＋0.1	＋2.0	＋77.9	＋76.4	＋0.1

（注）ｶｯｺ内は前年比

12月に鉱工業生産が前月比＋0.9%に加速した一方、製造業生産は同＋0.1%に鈍化

17年12月の鉱工業生産は、前月比＋0.9%（11月同▲0.1%）と増加に転じ、市場予想の同＋0.5%を上回ったうえ、７－11月合計で0.1%ｐ上方改定された。製造業は、大型ハリケーン「ハービー」、「イルマ」による被害からの復旧で10月に大幅上昇した影響が残存、前月比＋0.1%と減速を続け、市場予想の同＋0.3%を下回った（７－11月合計で0.1%ｐ上方改定）。一方、鉱業は掘削の増加などにより前月比＋1.6%と加速したほか、公益事業が気温の低下を受け前月比＋5.6%と上昇に転じた。製造業がドルの高い水準や輸入の増加などによって緩やかな拡大を続けている一方で、鉱業が原油価格の上昇により活動を活発化させている。

業種別では、需要の強い自動車・同部品のほか、その他耐久財、食品・飲料・タバコ、繊維、アパレルが増加に転じた。また、木材、印刷・同サポート、その他製造業が加速した。さらに、設備投資需要の回復に伴い一般機械は拡大を続けた。一方、一次金属、コンピューター・電子機器、電気設備・部品、家具・関連製品、化学、プラスチック・ゴム製品が減少に転じたことに加えて、非鉄、加工金属、航空機・その他輸送設備、紙が鈍化した。さらに、石油・石炭は減少を続けた。

稼働率では、設備投資の持ち直しによる生産能力の拡大が続く一方で、生産が増加に転じたことを背景に鉱工業全体が77.9%（前月77.2%）と上昇した（市場予想77.4%）。また、製造業は生産の拡大ペース鈍化によって76.4%（前月76.4%）と変わらずとなった。

なお、３ヶ月移動平均・３ヶ月前対比年率では、製造業生産が＋7.0%（前月＋3.9%）、鉱工業生産が製造業、鉱業、公益の拡大によって＋8.2%（前月＋4.0%）と加速し、拡大モメンタムが強まった。しかし、ハリケーンの復旧・復興、気温の低下による一時的な要因によって押し上げられており、生産活動は今後緩やかな拡大基調に回帰すると見込まれる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

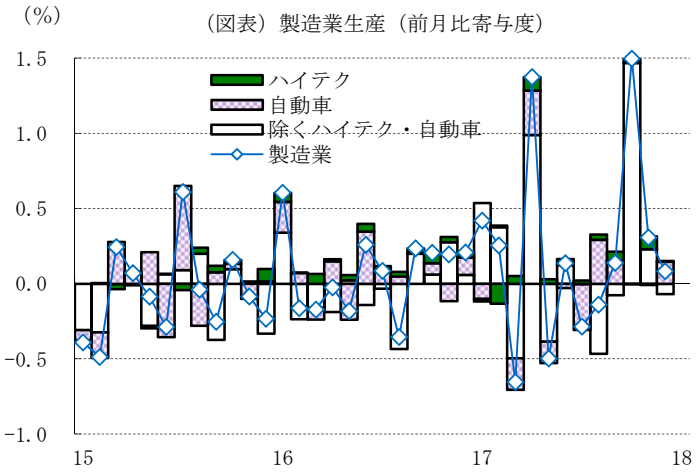
10―12月期の生産活動は反動で大幅増加

四半期でみると、10－12月期の製造業生産は前期比年率＋7.3％（７－９月期同▲1.6％）とハリケーン襲来による落ち込み、復旧・復興需要の健在化によって大幅に増加した。業種別では、木材、一次金属、加工金属が加速したほか、非鉄、一般機械、コンピューター、自動車・同部品、繊維、石油・石炭、化学が増加に転じた。

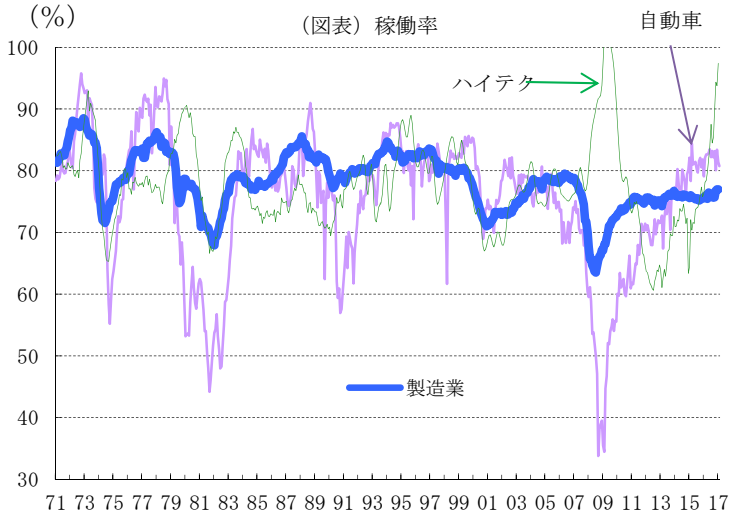
10－12月期の鉱工業生産も、ハリケーン襲来による落ち込み、復旧・復興需要の健在化等によって同＋8.2％（７－９月期同▲1.3％）と大幅な増加となった。製造業に加えて、鉱業が前期比年率＋12.7％（７－９月期同＋2.8％）、公益が同＋10.3％（同▲1.5％）と拡大した。

18年の生産活動は小幅加速

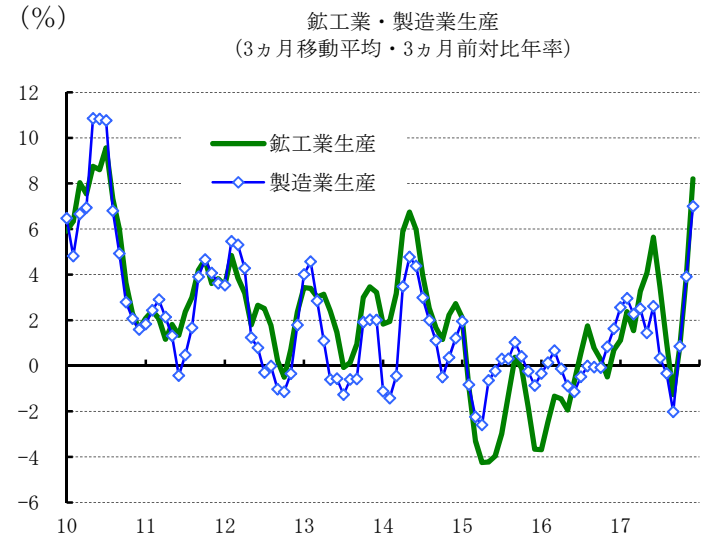
18年の生産活動は、高い水準のドル（実効レート）の影響を受けながらも、在庫の過剰感が乏しいもと、内外需要の拡大傾向の持続や、原油価格が昨年よりも上昇すると見込まれること等を背景に小幅加速すると見込まれる。前年比での予想は、製造業生産が18年＋2.4％（17年＋1.4％）、鉱工業生産が＋2.7％（＋2.0％）。



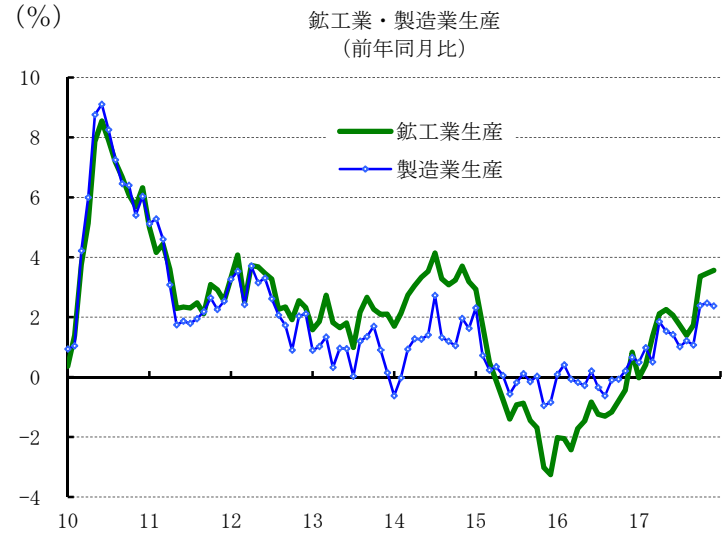
（出所）ＦＲＢデータより当社　（年/



（出所）ＦＲＢ

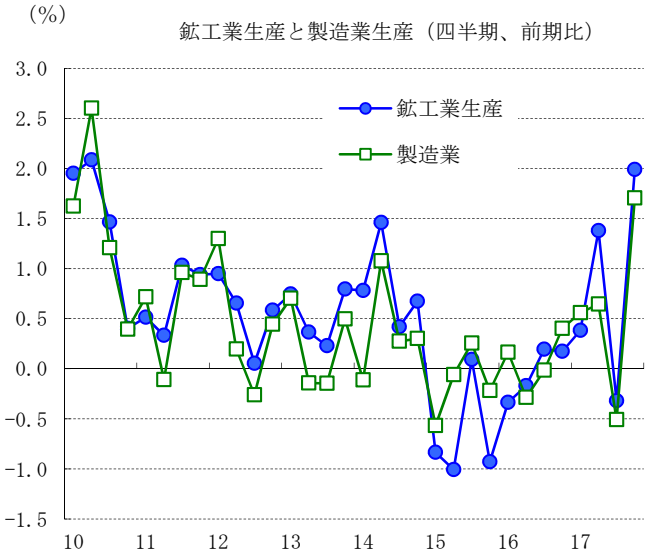


（出所）ＦＲＢ

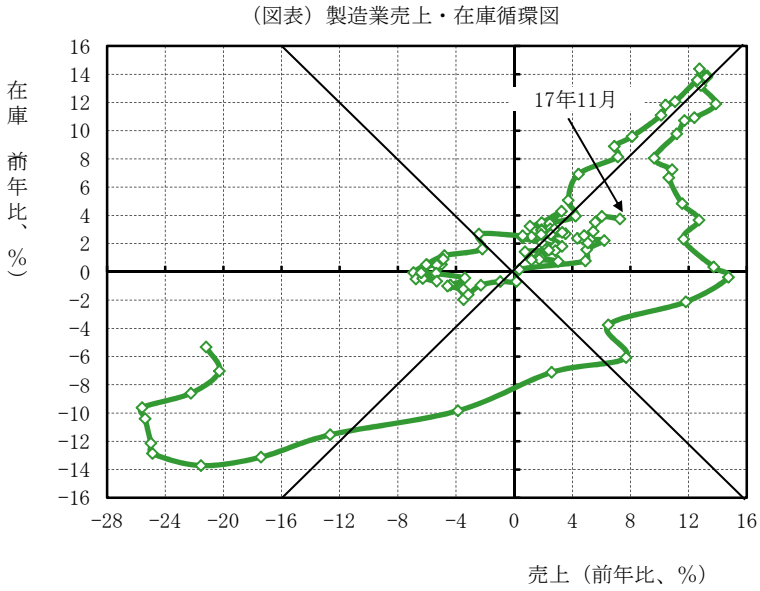


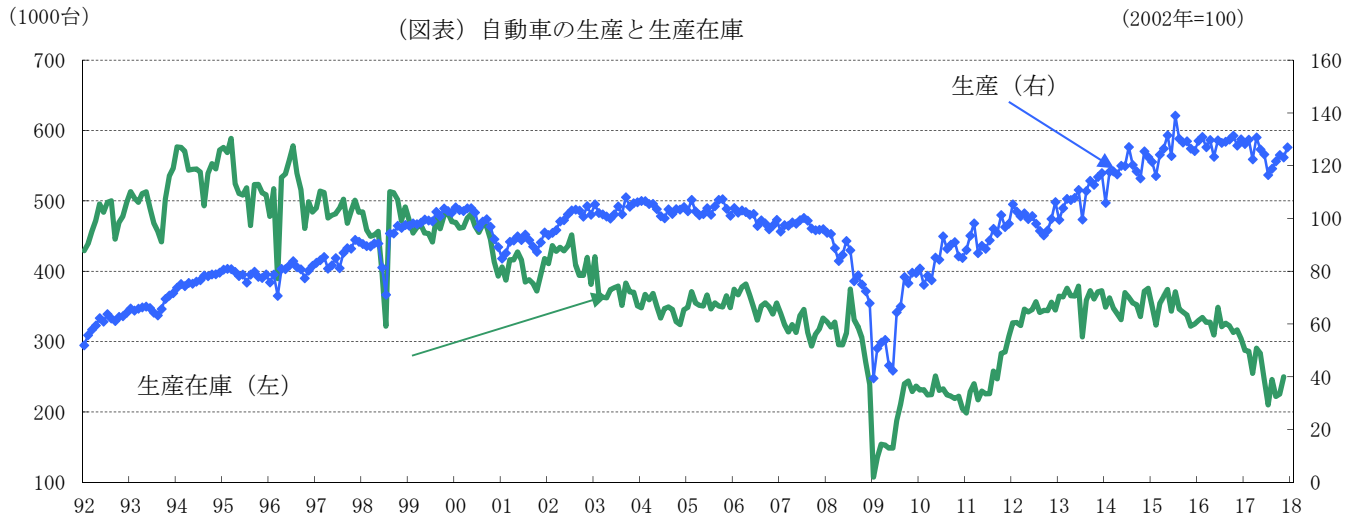
（出所）ＦＲＢ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



（出所）ＦＲＢ





（出所）ＦＲＢ、米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。